

いじめのこわさをなくすために

玉川小学校 五年 柴田 あさひ（しばた あさひ）

私は、頭の中がモヤモヤしていた時期があった。それは、だれかがいじめにあっているときだ。私はそのいじめを見て見ぬふりをしてしまっていた。そんなことをしてしまった理由は、そのいじめをとめに入ってしまったと自分もいっしょにいじめられると思っていたからだ。でも、助けない。いじめをとめるかとめないかでずっと頭の中が黒いけむりにずっとつまれているみたいだった。

具体的にどんないじめをされていたかということ、さけられていたことだ。私とその人と関わり、私までさけられるかもしれない。そんないろいろな気持ちがあったけれど、やっとこのいじめが終わった。なぜ、終わることができたかというと、先生が注意してくれたからだ。そのときは、とにかくいじめが終わって良かったと思ってた。でも、今はしょう来大じょうぶだろうか、と思っている。今でも、いじめをとめられないかもしれない。だから、先生のような大人になれるか心配に思う。でも少し、とめられるような気もする。なぜかということ、最近いじめによる事などを知ったからだ。それは、いじめによる自さつだ。死んでほしくないから、いじめをとめられるかもしれないと思う。

そして、最近、どんなことまでがいじめなのだろうと思う。今していることがいじめだったらどうしようと思う。いじめとは、人がいやだと思ったら、いじめだ。だからこそ人の気持ちを考えて行動したい。今、思えば人の気持ちを考えていけば、今まで見てきたいじめをとめられたかもしれない。だから、今からは、見たいじめはとめていけるよう、がんばりたい。

私はいじめない、いじめられない世界をつくりたいと思っている。だから、身近なところから、いじめをとめたり、人の気持ちを考えて行動したりしていききたい。そして、それがどんどん広がってほしい。そのためには、私がいじめをとめるときなどに勇気をだして、一歩ふみださなければならぬ。こわいけれど、それがだれかのためになるならば、がんばらなければ、と思う。これから、いろいろ苦しいこともあるかもしれないけれど、いじめにあうかもしれないけれど、みんなが楽しくすごすことのできる世界をつくるためにいじめをなくすことを意識して、行動していく。苦しむ人をなくすために。